

令和5年度 第2回食品ロス削減ネットワーク懇話会 議事概要

日時：令和5年3月28日（木）午後2時～

場所：WEB 会議システムによるオンライン開催

1 出席者

<構成員>

観啓大学 特任教授・神戸大学 名誉教授 石川 雅紀

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 西日本支部 支部長 樋口 容子

森永製菓株式会社 西日本統括支店 チャンネル開発担当主任 海原 厳平（代理出席）

国分西日本株式会社 人事総務課長 新村 治

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 サステナビリティ推進部長 西田 哲也

株式会社グルメ杵屋 レストラン経営企画室 執行役員 西嶋 栄人

大阪府環境農林水産部流通対策室 ブランド戦略推進課 課長補佐 荒木 登（代理出席）

<オブザーバー>

国分九州株式会社 人事総務課長 小林正二

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 サステナビリティ推進部 マネージャー 吉田 玲子

2 議 事

- (1) 食品ロス削減ネットワーク懇話会の座長について
- (2) 令和5年度大阪府の食品ロス削減の取組みについて
 - ・食品ロス削減ネットワーク懇話会について
 - ・おおさか食品ロス削減パートナーシップ制度について
 - ・食品ロス削減「大阪モデル」実証実験について
 - ・食品ロス削減ボランティア活動推進事業
 - ・食品ロス削減総合実践エリア推進事業
- (3) 令和6年度大阪府の食品ロス削減の取組みについて
 - ・食品ロス削減ネットワーク懇話会、パートナーシップ制度について
 - ・令和6年度消費者行動促進支援事業
 - ・令和6年度食品ロス削減行動推進事業
 - ・大阪府食品ロス削減計画の中間見直しについて

内 容

- (1) 食品ロス削減ネットワーク懇話会の座長について
○要綱に基づき構成員の互選により、座長は観啓大学特任教授・神戸大学名誉教授石川雅紀氏に決定。
- (2) 令和5年度大阪府の食品ロス削減の取組みについて
《令和5年度大阪府の食品ロス削減の取組みについて 資料1により事務局から説明》

○主な意見

<食品ロス削減「大阪モデル」実証実験について>

- ・再流通を希望する未利用食品の量に幅があり、数百点では大型トラックの戻り便のアレンジに実現性がないと理解できた。運送を含め、出てくる量とタイミングに柔軟に対応できる流通システムが構築できるかがカギ。現行法制度では、すぐには無理だろうが、ウーバーやシェアライド等のようなことができれば構築の可能性がある。
- ・基本的に BtoB の取組であるため、消費者はロスゼロの宣伝活動を通してしか見えない。取組の構成員の中で、大阪府は府民向けの側面が強いので消費者周知のサポートの役割がある。特に立ち上がりの時期は重要。ニュースになれば、あとは構成事業者で進んでいく。構成事業者が取組を進めていくだけ。
- ・取組当初は BtoB について商工会議所等のマッチングが必要。

<食品ロス削減総合実践エリア推進事業について>

- ・ごみの計測調査では、お客様 1 人当たりの量を、店ごとの発生量の店の差を見る基準にしている。
- ・客観的な人数のデータが得られるかが問題だが、レジの通過回数などでデータを整理すれば、バラつきが抑えられ、量の減少が見えやすくなる。
- ・絵はがきコンクールについて、小中学校では昔からコンテスト応募などしているので、食ロスでも同種のキャンペーンを教育委員会や学校とできたら、発展していくのでは。
- ・地域の廃棄物を減らす取組を店・家庭・イベントの 3 本柱で実践する中で、子どもたちのアイデアを募集し、実現する場を作った。子どもと向き合うと我々が学びを得ると実感しており、継続して取り組みたい。
- ・子ども向けキャンペーンは、メーカーとコラボした店頭展開を含めれば広がると感じる。我々メーカーは、メニュー公募・表彰、プレゼントなど、キャンペーンを考えることに知恵を振り絞ればと思う。

(3) 令和 6 年度大阪府の食品ロス削減の取組みについて

《令和 6 年度大阪府の食品ロス削減の取組みについて 資料 2 により事務局から説明》

<計画見直しに向けたこれまでの取組の整理について>

- ・これまで懇話会で実施した取組は、ユニークかつ有効だったと思う。小売店と学生が協力し、ワークショップや店舗での取組の実践では量的効果があり、従業員にインパクトもあった。
- ・過去の効果的な取組を発信するのも大事。実施内容と削減効果をはじめ、定量的でないものは具体的な効果などをコンパクトにまとめること。自分たちで俯瞰して再評価するためにも必要であるが、わかりやすく発信できるものがあるといい。

<イベントについて>

- ・計画見直しと万博の機会に、華やかな集客の催しはできないか。食ロス削減のイメージがネガティブなので、大阪らしく派手に、海外からの観光客も交え、世界食ロスフェスティバル等を楽しく美味しく面白くやりませんか。

- ・食ロスは広がりのある問題であるので、行政とも他の事業者とも連携してまとまって、今までないようなイベントや催しなどできると面白いと思う。
- ・食ロスにまつわる様々な活動の全てを一括して伝えられる交流の場、例えば食ロス削減フェスがあれば面白い。その場で、フードドライブも、食べきり活動もして、期限がせまった未利用食品を安く買える場もあるようなものにする。食ロス削減の取組を何かしたいけど、何からすればいいかわからない方が、その取組をつかめるきっかけや、自分なりの取組み方を見つけられるような、大きな場があっても楽しいのではないか。

<もったいないやん活動隊について>

- ・10月の食ロス削減減月間のイベントで、食品ロスを絡めてブース出展することを検討している。活動隊との連携も含めて、今後、相談したい。
- ・活動隊員が活発に活動するためには、各個人が、どこにモチベーションを感じるかを知ることが必要。個人の動機にない部分から活動をお願いする形だとボランティアはなかなか動かない。
- ・大事なことは、活動が目に見え、参画した人が手応えを感じること。
- ・参加人数がある程度増えると、参加者同士が刺激しあい、仲良くなり取組みを深める傾向がある。
- ・食ロス削減との関わり方は多様で、面白いと感じる点も一つではないので、入口は色々作る。
- ・最終的に食ロス削減につながれば、数字で見せ、皆でシェアする。イベント報告の広報だけでなく、何を伝えていき、つながるのかを、工夫してやらないとイベントで終わるというのが、この2年間やってきた印象。年間通じてやり続けることに意味がある。
やってることはイベント型ではあるが、一過性のイベントだとは思ってやっていない。手がかかるが、人の気持ちは確実に動いてる手応えを感じている。
- ・成果が目に見えるのはかなり違いが出る。手応えがあり、志が同じ人でコミュニケーションを行うことで、お互い励まされる、安心する、力をもらうということが大事と思う。
- ・活動隊は始まったばかりだが、先輩隊員と、今年度、入った隊員の交流に力を注ぎ込む価値があるかもしれない。
- ・立場が違う人と話をして刺激を受けるのは、グループワークで満足する原則。活動隊と企業で、お店とお客のやり取りではない本音のトークをやるとお互い得るところがあるのではないか。

<飲食店の食べきり持ち帰りについて>

- ・コロナ禍を経て、テイクアウトされるお客様が増えたと感じる。店がテイクアウト容器の準備ができて、取組のハードルが低くなっており、一気に持ち帰る仕組みが作れると感じる。
- ・海外からの従業員、アルバイト学生が「もったいない」と言っており、持ち帰りが恥ずかしいという意識も、以前より無くなってきている気がする。
- ・卸は、未利用食品の部分でメーカーとのつながりに参画できるかと思うが、商品を扱う上でのハードルも感じた。小売業様・製造業様の活動をフィードバックしながら、卸として食品ロスにどう関わるのかを考えたいと思う。

以上